

2019～2028年度の連系線の運用容量 (年間計画・長期計画)

2019年3月1日

(空白)

I - 1. 2019年度の連系線の運用容量 (平日：昼間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【30(①)】
	東北向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【80(③)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【30(①)】
東北東京間連系線	東北向	35(④)	32(④)	35(④) 【236(①)】	37(④)	33(④)	37(④)	35(④)	37(④)	44(④)	46(④)	48(④)	39(④)
	東京向	<490(②)> 480(②)	<470(②)> 465(②) 【420(②)】	<520(②)> 485(①) 【236(①)】	<495(①)> 455(①)	<520(①)> 515(①)	<480(②)> 【405(②)】	345(①) <480(①)> 【330(②)】	455(①)	<500(①)> 450(①)	465(①)	455(①)	<420(①)> 360(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(③)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】
	中部向	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【82(③)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	250(④)	250(④) 【21(④)】	250(④) 【21(④)】	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	54(④)	60(④) 【39(④)】	69(④) 【40(④)】	102(④)	103(④)	前半86(④) 後半78(④)	69(④)	前半73(④) 後半77(④)	93(④)	109(④)	88(④)	前半68(④) 後半58(④)
北陸フェンス	北陸 受電向	130(④)	130(④)	150(④)	150(④)	150(④)	150(④)	130(④)	130(④)	160(④)	160(④)	160(④)	160(④)
	北陸 送電向	176(④)	183(④)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半181(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④)	130(④)	150(④)	150(④)	150(④)	150(④)	130(④) 【0(①)】	130(④)	160(④)	160(④)	160(④)	160(④)
	関西向	176(④)	183(④)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②) 【0(①)】	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半181(④)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③) 【304(③)】	389(③) 【379(③)】	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 【329(①)】 後半389(③) 【278(①)】	389(③) 【278(①)】	389(③) 【329(①)】	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【25(④)】	120(①) 【24(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【25(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【29(④)】	120(①) 【26(④)】
中国九州間連系線 注1)	中国向	228(④) 【228(④)】	193(④) 【193(④)】	232(④)	253(④)	247(④)	前半245(④) 後半234(④)	231(④)	前半238(④) 後半246(④)	258(④)	261(④)	273(④)	前半253(④) 後半240(④)
	九州向	0(④)	2(④)	5(④)	18(④)	18(④)	前半12(④) 後半9(④)	8(④)	前半8(④) 後半9(④)	18(④)	18(④)	13(④)	前半6(④) 後半4(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降



I - 2. 2019年度の連系線の運用容量 (平日：夜間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【30(①)】
	東北向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【30(①)】
東北東京間連系線	東北向	28(④)	24(④)	26(④) 【236(①)】	28(④)	24(④)	28(④)	27(④)	29(④)	36(④)	39(④)	43(④)	36(④)
	東京向	<500(②)> 490(②)	<465(②)> 460(②) 【415(②)】	<500(①)> 460(②) 【236(①)】	<500(①)> 475(①)	495(①)	<480(①)> 425(②) 【380(②)】	360(①) <450(②)> 【325(②)】	435(①)	<470(①)> 465(①)	475(①)	465(①)	<385(①)> 375(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(③)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】
	中部向	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【82(③)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④) 【0(①)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	86(④)	83(④)	84(④)	103(④)	109(④)	前半101(④) 後半95(④)	98(④) 【0(①)】	前半103(④) 後半108(④)	119(④)	129(④)	137(④)	前半118(④) 後半106(④)
北陸フェンス	北陸 受電向	70(④)	70(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	70(④)	70(④)	90(④)	90(④)	90(④)	90(④)
	北陸 送電向	190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	70(④)	70(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	70(④) 【0(①)】	70(④)	90(④)	90(④)	90(④)	90(④)
	関西向	190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②) 【0(①)】	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③) 【304(③)】	389(③)	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 後半389(③)	389(③)	389(③)	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【23(④)】	120(①) 【22(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	199(④) 【199(④)】	189(④) 【189(④)】	196(④)	209(④)	205(④)	前半208(④) 後半200(④)	195(④)	前半205(④) 後半210(④)	223(④)	219(④)	250(④)	前半225(④) 後半215(④)
	九州向	28(④)	27(④)	27(④)	34(④)	34(④)	前半34(④) 後半32(④)	36(④)	前半37(④) 後半38(④)	41(④)	43(④)	44(④)	前半41(④) 後半38(④)

()内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

I - 3. 2019年度の連系線の運用容量 (休日：昼間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【60(③)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(③)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90 (①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(③)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90 (①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	29(④)	26(④)	29(④) 【236(①)】	32(④)	31(④)	33(④)	31(④)	33(④)	37(④)	30(④)	42(④)	35(④)
	東京向	<490(②)> 480(②)	<480(②)> 465(②)	<510(②)> 485(①) 【236(①)】	<485(①)> 455(①)	<520(①)> 515(①)	455(②) <480(②)> 【405(②)】	<480(①)> 【330(②)】	455(①)	<460(①)> 450(①)	465(①)	455(①)	<420(①)> 360(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【65(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④) 【16(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	31(④)	32(④)	39(④) 【32(④)】	75(④)	79(④)	前半62(④) 後半53(④)	40(④)	前半45(④) 後半54(④)	68(④)	78(④)	60(④)	前半42(④) 後半40(④)
北陸フェンス	北陸 受電向	70(④)	70(④) 【0 (④)】	80(④) 【0 (④)】	80(④)	80(④)	80(④)	70(④)	70(④)	90(④)	90(④)	90(④)	90(④)
	北陸 送電向	134(④)	137(④) 【50 (④)】	148(④) 【50 (④)】	190(②)	190(②)	前半180(④) 後半170(④)	152(④)	前半157(④) 後半167(④)	185(④)	190(②)	174(④)	前半151(④) 後半145(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	70(④)	70(④) 【30(④)】	80(④) 【30(④)】	80(④)	80(④)	80(④)	70(④)	70(④)	90(④)	90(④)	90(④)	90(④)
	関西向	134(④)	137(④) 【80 (④)】	148(④) 【80 (④)】	190(②)	190(②)	前半180(④) 後半170(④)	152(④)	前半157(④) 後半167(④)	185(④)	190(②)	174(④)	前半151(④) 後半145(④)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③)	389(③)	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 後半389(③) 【369(③)】	389(③)	389(③) 【329(①)】	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	185(④) 【185(④)】	179(④) 【179(④)】	186(④)	212(④)	218(④)	前半205(④) 後半197(④)	189(④)	前半200(④) 後半211(④)	218(④)	230(④)	226(④)	前半209(④) 後半208(④)
	九州向	0(④)	0(④)	0(④)	12(④)	12(④)	前半7(④) 後半4(④)	1(④)	前半2(④) 後半6(④)	11(④)	13(④)	6(④)	前半0(④) 後半0(④)

()内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降



I - 4. 2019年度の連系線の運用容量(休日：夜間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	28(④)	23(④)	27(④) 【236(①)】	28(④)	24(④)	28(④)	26(④)	29(④)	38(④)	34(④)	43(④)	36(④)
	東京向	<500(②)> 490(②)	<475(②)> 460(②)	<500(①)> 460(②) 【236(①)】	<500(①)> 475(①)	495(①)	<480(①)> 430(②) 【380(②)】	<430(①)> 【325(②)】	435(①)	<470(①)> 465(①)	475(①)	465(①)	<385(①)> 375(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【64(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【69(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	63(④)	55(④)	61(④)	82(④)	88(④)	前半78(④) 後半75(④)	76(④)	前半90(④) 後半96(④)	110(④)	117(④)	115(④)	前半93(④) 後半92(④)
北陸フェンス	北陸受電向	70(④)	70(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	70(④)	70(④)	90(④)	90(④)	90(④)	90(④)
	北陸送電向	177(④)	167(④)	175(④)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	70(④)	70(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	70(④)	70(④)	90(④)	90(④)	90(④)	90(④)
	関西向	177(④)	167(④)	175(④)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③)	389(③)	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 後半389(③)	389(③)	389(③)	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【21(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	179(④) 【179(④)】	169(④) 【169(④)】	176(④)	190(④)	196(④)	前半185(④) 後半179(④)	175(④)	前半186(④) 後半194(④)	207(④)	224(④)	218(④)	前半205(④) 後半204(④)
	九州向	22(④)	21(④)	22(④)	29(④)	32(④)	前半28(④) 後半28(④)	30(④)	前半34(④) 後半36(④)	39(④)	40(④)	40(④)	前半36(④) 後半34(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅱ - 1. 2020年度の連系線の運用容量 (平日：昼間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)
	東京向	505(②) 【435(②)】	<545(②)> 520(①) 【415(①)】	<545(①)> 445(②) 【470(②)】	<555(①)> 540(①)	<575(①)> 555(①)	540(①) 【540(①)】	<485(②)> 465(②) 【345(①)】	<505(②)> 485(②) 【485(②)】	<575(①)> 520(②)	<595(①)> 575(①)	<600(①)> 540(①)	<600(①)> 540(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	【60(④)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】
	中部向	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	250(④)	250(④)	250(④) 【21(④)】	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	53(④)	60(④)	68(④) 【40(④)】	102(④)	103(④)	前半86(④) 後半77(④)	69(④)	前半73(④) 後半77(④)	92(④)	109(④)	87(④)	前半67(④) 後半58(④)
北陸フェンス	北陸受電向	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)
	北陸送電向	176(④)	183(④)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半180(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】
北陸関西間連系線	北陸向	130(④)	130(④)	130(④) 【0 ①】	130(④)	130(④)	130(④) 【0 ①】	130(④) 【0 ①】	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④) 【0 ①】
	関西向	176(④)	183(④)	190(②) 【0 ①】	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②) 【0 ①】	190(②) 【0 ①】	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 【0 ①】 後半180(④)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③) 【304(③)】	389(③) 【329(①)】	389(③) 【278(①)】	414(③)	414(③)	前半414(③) 【329(①)】 後半389(③)	389(③) 【329(①)】	389(③) 【329(①)】	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【25(④)】	120(①) 【24(④)】	120(①) 【25(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【25(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	227(④) 【227(④)】	218(④) 【218(④)】	232(④)	253(④)	246(④)	前半245(④) 後半234(④)	231(④)	前半238(④) 後半246(④)	258(④)	261(④)	273(④)	前半253(④) 後半240(④)
	九州向	0(④)	2(④)	5(④)	18(④)	18(④)	前半12(④) 後半9(④)	8(④)	前半8(④) 後半9(④)	18(④)	18(④)	13(④)	前半6(④) 後半4(④)

()内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

< > 内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な毎日の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅱ - 2. 2020年度の連系線の運用容量 (平日：夜間帯)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)
	東京向	480(①) 【445(②)】	<520(②)> 500(①) 【415(①)】	<540(①)> 435(②) 【460(②)】	<555(①)> 510(①)	<565(①)> 555(①)	535(②) 【535(②)】	<495(②)> 475(②) 【345(①)】	<530(②)> 510(②)	<535(①)> 525(②)	<545(①)> 530(①)	<545(①)> 500(①)	<545(①)> 480(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	86(④)	83(④)	83(④)	103(④)	109(④)	前半101(④) 後半95(④)	97(④)	前半103(④) 後半108(④)	119(④)	129(④)	137(④)	前半118(④) 後半106(④)
北陸フェンス	北陸受電向	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)
	北陸送電向	190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	70(④)	70(④)	70(④) 【0(①)】	70(④)	70(④)	70(④) 【0(①)】	70(④) 【0(①)】	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)
	関西向	190(②)	190(②)	190(②) 【0(①)】	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②) 【0(①)】	190(②) 【0(①)】	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③)	389(③)	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 後半389(③)	389(③) 【329(①)】	389(③) 【329(①)】	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【23(④)】	120(①) 【22(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	199(④) 【199(④)】	195(④) 【195(④)】	196(④)	209(④)	205(④)	前半208(④) 後半200(④)	194(④)	前半205(④) 後半210(④)	222(④)	219(④)	250(④)	前半225(④) 後半215(④)
	九州向	28(④)	27(④)	27(④)	34(④)	34(④)	前半34(④) 後半32(④)	36(④)	前半37(④) 後半38(④)	41(④)	43(④)	44(④)	前半41(④) 後半38(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」: 15日まで、「後半」: 16日以降

Ⅱ - 3. 2020年度の連系線の運用容量 (休日：昼間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) [30(①)]	90(①) [60(①)]	90(①) [30(①)]	90(①)	90(①) [30(①)]	90(①) [60(①)]	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	90(①) [30(①)]	90(①) [60(①)]	90(①) [30(①)]	90(①)	90(①) [30(①)]	90(①) [60(①)]	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)
	東京向	<520(②)> 505(②) [435(②)]	<545(②)> 520(①) [415(①)]	<535(②)> 445(②)	<555(①)> 520(①)	<560(①)> 555(①)	540(①) [540(①)]	<485(②)> 455(②) [345(①)]	<505(②)> 485(②)	<575(①)> 520(②)	<595(①)> 575(①)	<600(①)> 540(①)	<545(②)> 540(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) [60(③)]	120(①) [60(①)]	120(①) [60(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [60(①)]	120(①)
	中部向	120(①) [90(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [60(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [60(①)]	120(①)
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	30(④)	32(④)	39(④)	75(④)	79(④)	前半61(④) 後半53(④)	40(④)	前半45(④) 後半53(④)	68(④)	78(④)	60(④)	前半42(④) 後半40(④)
北陸フェンス	北陸 受電向	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)
	北陸 送電向	134(④)	137(④)	148(④)	190(②)	190(②)	前半180(④) 後半170(④)	152(④)	前半157(④) 後半166(④)	185(②)	190(②)	174(④)	前半151(④) 後半145(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①) [0(①)]	30(①) [0(①)]	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	70(④)	70(④)	70(④) [0(①)]	70(④)	70(④)	70(④) [0(①)]	70(④) [0(①)]	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)
	関西向	134(④)	137(④)	148(④) [0(①)]	190(②)	190(②)	前半180(④) 後半170(④) [0(①)]	152(④) [0(①)]	前半157(④) 後半166(④)	185(④)	190(②)	174(④)	前半151(④) 後半145(④)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③) [304(③)]	389(③)	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 後半389(③)	389(③) [329(①)]	389(③) [329(①)]	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①) [70(①)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①) [70(①)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) [22(④)]	120(①) [21(④)]	120(①) [21(④)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	185(④) [185(④)]	179(④) [179(④)]	186(④)	211(④)	218(④)	前半205(④) 後半197(④)	189(④)	前半200(④) 後半211(④)	217(④)	229(④)	226(④)	前半208(④) 後半208(④)
	九州向	0(④)	0(④)	0(④)	12(④)	12(④)	前半7(④) 後半4(④)	1(④)	前半2(④) 後半6(④)	11(④)	13(④)	6(④)	前半0(④) 後半0(④)

()内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

< > 内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な毎日の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅱ - 4. 2020年度の連系線の運用容量 (休日：夜間帯)

10
(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)
	東京向	<485(①)> 480(①) 【445(②)】	<520(②)> 500(①) 【415(①)】	<515(①)> 435(②)	<555(①)> 510(①)	555(①)	535(②) 【535(②)】	<495(②)> 465(②) 【345(①)】	<530(②)> 510(②)	<535(①)> 525(②)	<545(①)> 530(①)	<545(①)> 500(①)	<505(①)> 480(①)
東京中部間連系設備	東京向	120(①) 【65(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	63(④)	55(④)	61(④)	82(④)	87(④)	前半77(④) 後半75(④)	75(④)	前半89(④) 後半95(④)	109(④)	116(④)	114(④)	前半93(④) 後半92(④)
北陸フェンス	北陸 受電向	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)
	北陸 送電向	177(④)	167(④)	175(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	70(④)	70(④)	70(④) 【0(①)】	70(④)	70(④)	70(④) 【0(①)】	70(④) 【0(①)】	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)	70(④)
	関西向	177(④)	167(④)	175(④) 【0(①)】	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②) 【0(①)】	190(②) 【0(①)】	前半190(②) 後半190(②)	190(②)	190(②)	190(②)	前半190(②) 後半190(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	389(③)	389(③)	389(③)	414(③)	414(③)	前半414(③) 後半389(③)	389(③) 【329(①)】	389(③) 【329(①)】	404(③)	404(③)	404(③)	前半404(③) 後半389(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【21(④)】	120(①) 【20(④)】	120(①) 【20(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	179(④) 【179(④)】	169(④) 【169(④)】	176(④)	190(④)	196(④)	前半185(④) 後半179(④)	175(④)	前半186(④) 後半194(④)	207(④)	224(④)	217(④)	前半204(④) 後半204(④)
	九州向	22(④)	21(④)	22(④)	29(④)	32(④)	前半28(④) 後半28(④)	30(④)	前半34(④) 後半36(④)	39(④)	40(④)	40(④)	前半36(④) 後半34(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2019年度 (万kW)						2020年度 (万kW)					
連系線	潮流方向	断面	GW	盆	年末年始	連系線	潮流方向	断面	GW	盆	年末年始
中部関西間連系線 ¹⁾	関西向	昼間帯	31(④)	84(④)	48(④)	中部関西間連系線 ¹⁾	関西向	昼間帯	31(④)	84(④)	48(④)
		夜間帯	53(④)	90(④)	101(④)			夜間帯	53(④)	89(④)	101(④)
北陸フェンス ¹⁾	北陸送電向	昼間帯	135(④)	190(②)	156(④)	北陸フェンス ¹⁾	北陸送電向	昼間帯	135(④)	190(②)	156(④)
		夜間帯	164(④)	190(②)	190(②)			夜間帯	164(④)	190(②)	190(②)
中部北陸間連系設備	中部向	昼間帯	30(①)	30(①)	30(①)	中部北陸間連系設備	中部向	昼間帯	30(①)	30(①)	30(①)
		夜間帯	30(①)	30(①)	30(①)			夜間帯	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	関西向	昼間帯	135(④)	190(②)	156(④)	北陸関西間連系線	関西向	昼間帯	135(④)	190(②)	156(④)
		夜間帯	164(④)	190(②)	190(②)			夜間帯	164(④)	190(②)	190(②)
中国九州間連系線 ²⁾	中国向	昼間帯	176(④)	218(④)	182(④)	中国九州間連系線 ²⁾	中国向	昼間帯	176(④)	218(④)	182(④)
		夜間帯	165(④)	190(④)	188(④)			夜間帯	165(④)	190(④)	188(④)
	九州向	昼間帯	0(④)	17(④)	6(④)		九州向	昼間帯	0(④)	17(④)	6(④)
		夜間帯	21(④)	32(④)	39(④)			夜間帯	21(④)	32(④)	39(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。

1) 休日または特殊日明けの夜間帯のうち0:00~8:00は、休日または特殊日の夜間帯の運用容量とする。

2) 連続休日(特殊日以外)または特殊日明けの夜間帯のうち0:00~8:00は、休日または特殊日の夜間帯の運用容量とする。

特殊日として扱う日については、系統情報サービス「2019年度・2020年度連系線運用にかかわる平日・休日カレンダーについて」参照

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

IV. 2021～2028年度の連系線の運用容量（長期計画）

12
(万kW)

連系線	潮流方向	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) ²⁾	631(①)
	東京向	550(②) 【360(①)】	550(②) 【360(①)】	550(②) 【360(①)】	550(②) 【360(①)】	550(②) 【360(①)】	620(②) ¹⁾ 【360(①)】	620(②) ³⁾ 【360(①)】	1028(②) 【360(①)】
東京中部間連系設備	東京向	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	300(①)
	中部向	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	300(①)
中部関西間連系線	中部向	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】
	関西向	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】	126(④) 【30(④)】
北陸フェンス	北陸受電向	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】
	北陸送電向	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】	130(④) 【70(④)】
	関西向	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】	190(②) 【134(④)】
関西中国間連系線	関西向	414(③)	414(③)	414(③)	414(③)	414(③)	414(③)	414(③)	414(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】	278(①) 【169(④)】
	九州向	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】	18(④) 【0(④)】

【 】内の数字は、最大需要時以外など空容量が小さくなると予想される値を示す。（東北東京間（東京向）は、2019年度における最小値を参考記載）

() 内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。

- 1) 東北地内の電源増設により、2026年度から東京向きの運用容量が70万kW増加の見込み。
- 2) 2027年第二連系線運開後は、631万kW（相馬双葉幹線1回線熱容量相当）になる見込み。
- 3) 2027年第二連系線運開後は、1028万kW（「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」(2017.2.3策定)に基づく）になる見込み。

2019年度（8月平日昼間帯）における運用容量算定結果

※各エリア内数値は、2019年度送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。

